

丸軟鋼	975 本	1 951.90	山 本 東 作	昭 和 8 年 度 分
同	955 本	1 920.70	同 人	同 上
セメント	1 600 袋	1 938.00	大分セメント株式會社	同 上
松角材	1 550 本	1 440.50	中 西 清 吉	同 上
セメント	1 600 袋	1 888.00	大分セメント株式會社	同 上
同	1 000 袋	1 150.00	同 上	同 上
松角材	16 本	1 071.60	中 田 喜 平	同 上
丸軟鋼	4 785 本	6 549.00	出 來 鹿 男	同 上
セメント	7 000 袋	8 330.00	淺野セメント株式會社	同 上

## 6. 主要機械器具

品 名	性 能	數量(圖)	價 格	製造,工作,販賣, 納入者名	備 考
曳船田邊丸	40 馬力	1 隻	2 000.00	近 江 楠 松	昭和7年度分
曳船江川丸	25 馬力	1 "	1 100.00	西 野 時 藏	同 上
土石運搬船	23 400 kg 積	1 "	1 655.00	同 人	同 上
同 上	43 400 kg 積	1 "	1 630.00	福 山 安 二 郎	同 上
同 上	12 000 kg 積	3 "	1 050.00	堅 田 重 作	同 上
軌條附屬品一式		50 本	1 725.00	中 西 清 吉	同 上
運 搬 車	{1 m <sup>3</sup> 積, 横軸 式鐵製鍋トロ	20 臺	1 020.00	沖 見 政 夫	同 上
6 kg 軌 條		649 間	1 383.90	細 尾 茂 吉	同 上
アイビーム		16 本	1 216.00	坂 口 嘉 兵 衛	同 上
起重機浮艇	15 ton 捲	1 隻	6 500.00	同 人	同 上

7. 工事執行者 和歌山縣

8. 計畫設計者 計畫者 和歌山縣前土木課長 平川保一  
設計者 道路技師兼土木技師 奥山 茂

9. 工事監督者 土木工師 一色金彌

10. 施行方法 和歌山縣直營とし、江川浦字立戸に田邊港修築事務所を設置す。

11. 起工年月 昭和7年11月4日

12. 竣工年月 昭和10年3月31日

## 東岩瀬港修築工事概要

(本文に就ては會員工學士荒木榮二君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

## 1. 箇所名並に工事種類

富山縣上新川郡東岩瀬町地内、東岩瀬港修築工事

## 2. 計畫概要、工事狀況

東岩瀬港は富山灣の中部に位し、元神通川の河口に在り、富山市の海門として往時相當殷賑を極めたるも土砂

により河口閉塞せられ、船舶の出入困難となりたるを以て大正 7 年内務省が神通川改修工事に着手せるを好機とし本港第 1 期工事を起せり。

**第 1 期工事** 神通川の改修工事により兩方に新河口を造り、在來河口を東岩瀬港として利用し茲に河川と港灣とを全く分離せり、本工事は防波堤（東突堤）390 m を築設し、その頭部を水深 9 m に達せしめ、神通川右岸突堤（中央突堤）と對峙せしめ以て港口 180 m を扼し、港内水面積 500 000 m<sup>2</sup> を抱擁し、港内の一部水深 4.5 m に浚渫して 1 000 ton 級船舶の出入に便ならしめたり。

**第 2 期工事** 港勢の發展により接岸荷役の必要に迫られ港内の東岩瀬町側に面積 75 000 m<sup>2</sup> の埋立地を造成し、北端近く 3 000 ton 級船舶 1 隻分、延長 150 m の岸壁を作り、その前を水深 7.30 m に浚渫しそれより港奥に向ひたる護岸は斜面物揚場としその前を水深 3 m に浚渫せり。

工法として岸壁は鋼鐵矢板を用ひ、護岸は鐵筋コンクリート矢板を使用せり。

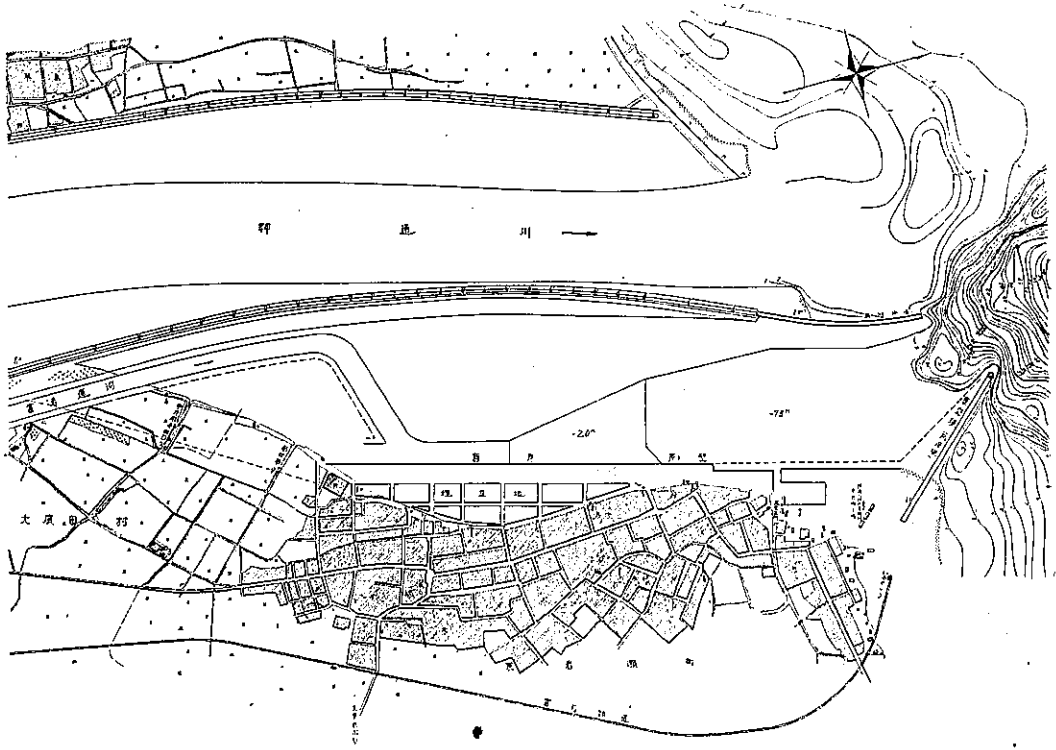
茲に特記すべき事項として本港奥より接續して運河を掘鑿し、省線富山驛裏に至るものあり、これ東岩瀬港と

第 1 圖 東岩瀬港修築計畫圖

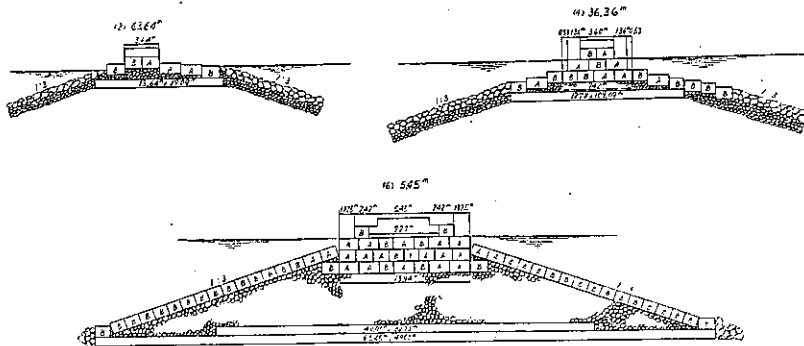


富山市とを繋ぐ所謂富岩運河にして、この延長約 2617 間の沿線は地盤良く廣濶にして湧水量多く一面本縣は水力電氣豊富且低廉なるを以て工場地帯化せんとするには好適の地なり、而して運河の幅員は稍中央より東岩瀬港間は 23.3 間又富山驛裏に至間るは 33.5 間なりとす。

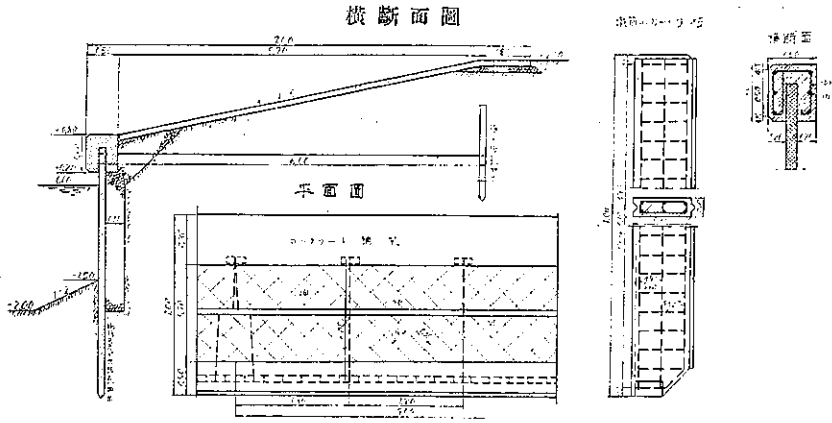
第 2 圖 東岩瀬港計畫平面圖



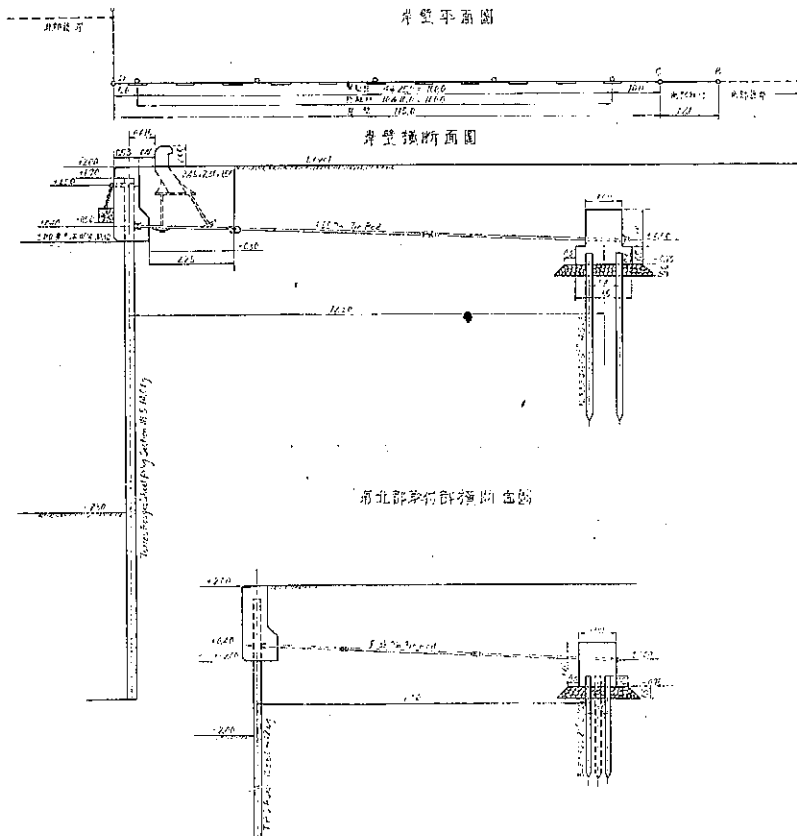
第 3 圖 東突堤断面圖



第4圖 護岸設計圖



第5圖 岸壁設計圖



3. 工事費

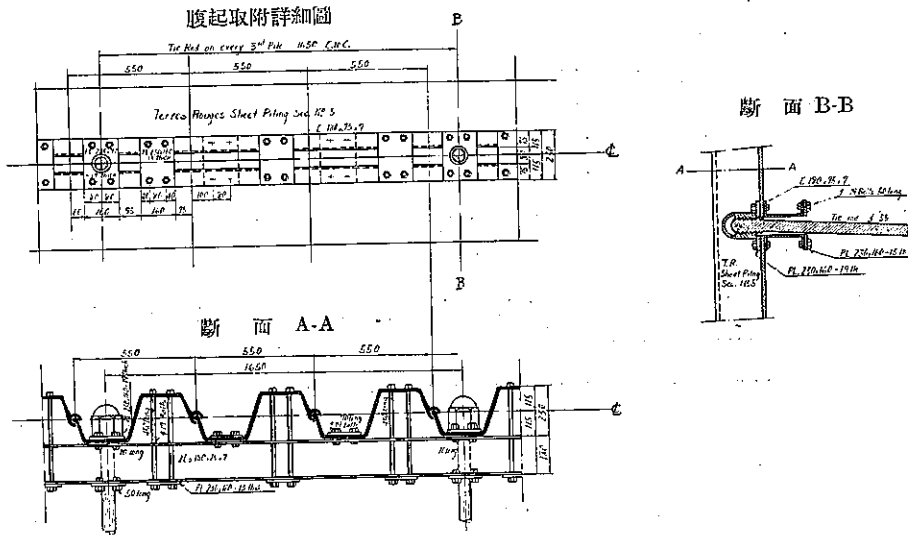
第1期工事 (着手大正13年度 竣功昭和3年度)

突堤費 (防波堤費)	浚渫費	機械器具費	雜費	計
338 000 (圓)	156 000 (圓)	61 000 (圓)	25 000 (圓)	580 000 (圓)

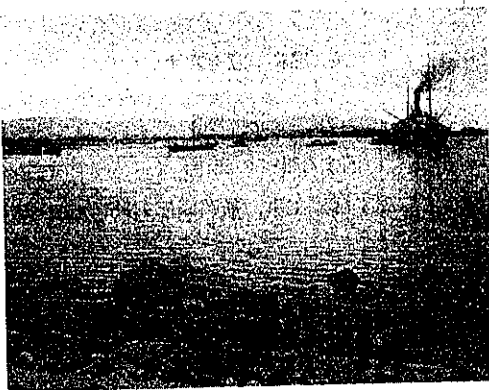
第2期工事 (着手昭和4年度 竣功昭和8年度)

岸壁費	護岸費	浚渫費	埋立費	機械器具費	雜費	計
77 000 (圓)	45 800 (圓)	168 000 (圓)	22 800 (圓)	50 000 (圓)	26 400 (圓)	390 000 (圓)

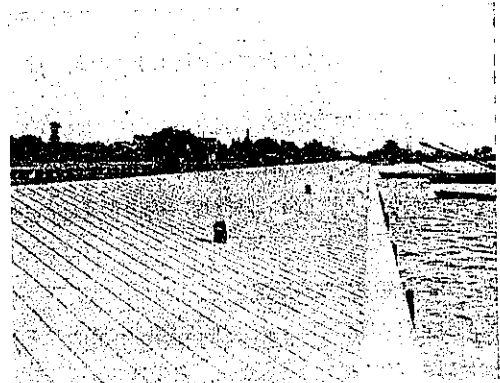
第6圖 岸壁設計圖



第7圖 東突堤(防波堤)より港内を望む



第8圖 竣功の斜面物揚場



4. 主要材料

鋼 矢 板  
セメント

岸壁用テルルージュ第5型, 長 14 m  
突堤方塊及び護岸物揚場用鐵筋コンクリート矢板, 長 4 m

## 5. 主要機械器具

品名	数量	備考
キューブ・ミキサー 14 切線	1 臺	内務省新潟土木出張所管内他工 事用のもの轉用
ランサム・ミキサー 7 切線	1 "	
12 ton ゴライアス	1 "	
12 ton クレーン	1 臺	
油谷式パイル・ハンマー (3 ton)	1 "	
20 ton 蒸気汽關車	1 "	
ポンプ式浚渫船 (1 時間 60 坪掘)	1 隻	
1 坪積土運船	6 "	
7 坪積土運船	2 "	
10 坪積土運船	2 "	
曳船 (25 馬力, 石油發動機)	1 "	
曳船 (30 馬力, 石油發動機)	1 "	
バケット式浚渫船 (100 坪掘)	1 "	
同 上 (200 坪掘)	1 "	

6. 工事執行者 富山縣營工事なるも内務省新潟土木出張所神通川改修事務所に於て河口工事中なる故を以て同所に委託す。

7. 計畫設計者 第 1 期工事 内務省新潟土木出張所, 富山縣, 第 2 期工事 港灣協會

8. 工事監督者 内務技師 高橋嘉一郎, 同 平尾 勝, 同 金子南瀧

9. 施工方法 内務省新潟土木出張所神通川改修事務所に於て直營執行とす。

10. 起工年月 大正 13 年 4 月

11. 竣工年月 昭和 9 年 3 月

## 木更津港修築工事概要

(本文に就ては會員工學士西義一君の勞を煩はしたり, 茲に感謝の意を表す。)

## 1. 箇所名並に工事種類

本港は千葉縣君津郡木更津町木更津地先, 即ち本縣の中央部東京灣に面する唯一の商港にして, その主なる工事は港内及び航路の浚渫工事, 防波堤, 荷揚場及びその他の埋立工事及び護岸工事, 航路兩側の防砂堤工事等である。

## 2. 工事概要並に工事狀況

本修築計畫は昭和 7, 8, 9 の 3 箇年繼續事業にして各その大要を述べれば次の如し。

(a) 航路 航路延長 1 528.62 m, 敷幅 45.40 m, 左右は 5 割法とし干潮面下 3 m に浚渫し, この土砂 254.145 m<sup>3</sup> は防波堤, 荷揚場及び埋立地内へ捨土するものである, 航路は南西及び北西の恒風の起因する漂砂により埋没する虞があるので 150 m の距離を隔て、航路の兩側に, 幅 70 cm, 長 1 m, 高 60 cm~90 cm のコンクリート方塊を設置し漂砂の侵入を防止するのである。最初實施に際し各方塊を密接して, 配置したるに干潮時に方塊の方向に沿